

こんにちは、塗り替え屋本舗です。2024年になり、心が痛む天災や事故が起こり、これまでに経験したことのないような年始を過ごされた方も多いと思います。いつかくるといわれている大地震に備えてできることから防災をはじめましょう。今回は地震の備えについてお話ししたいと思います。

～いつかくるといわれている南海トラフ地震～

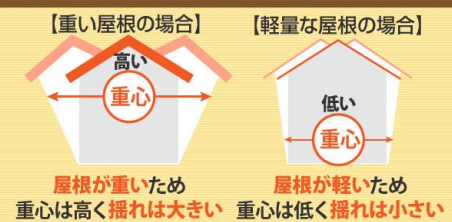
今、私たちにできること



今回の能登半島地震で液状化や隆起の映像、報道を目にする機会が増えて、家を建てるのに強い地盤がいかに大切かを改めて知りました。地震大国の日本で「絶対に安全な場所」を選ぶことは難しいですが、震災に備えて耐震対策を行い、被害を最小限に抑え、身の安全を守ることはできます。

備えその1【外構】

屋根の重さによる重心位置と地震による揺れの違い



1980年以前に建てられた築40年以上のお住まいは耐震基準を満たしていないので、耐震補強工事を行っておくことが大切です。また、瓦屋根のお住まいは、耐久性、断熱性、遮音性に優れますが、瓦が重いとそれだけ建物の揺れが大きくなり倒壊してしまう危険があります。軽量のガルバリウム鋼板などに張り替えることで揺れを抑えることができます。ブロック塀も倒壊する危険があるのでアルミやスチールタイプのフェンスにリフォームすることで危険を防ぐことができます。

備えその2【家具の配置】

就寝中に大きな地震が起きたとき、ベッドのそばにテレビや本棚など、重たい家具を置いていると家具の下敷きになってしまう可能性があります。

部屋の出入口付近や通路には家具を置かない。

避難経路が塞がれるのを防ぐために、出入口の近くや廊下などに家具を配置しないようにしましょう。

背の高い家具は、ベッドや布団から離して配置する。

大きな家具を設置する場合は枕元に置かないようにするなど工夫をしてけがのリスクを下げましょう。

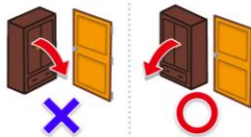
重いものは低い位置に置く。

食器棚では陶器やガラスでできた重いもの、本棚では百科事典などの重い本を下段に入れると、家具全体の重心が下がるので倒れにくくなります。

倒れて出入口をふさがないように



就寝位置は、家具が倒れてくる位置にしない。



備えその3

【避難ルートの確保】

★家の中からどのようにして脱出するか室内から屋外までの難ルートを確認する。また2階以上に住んでいる方は「避難用はしご」を準備しておくのもおすすめします。

★集合住宅の場合は非常口・非常階段を使ったルートを確認しおきましょう。

★自宅近くの避難所や防災拠点を自前に調べて、家族で落ち合う場所を決めておきましょう。

備えその4【避難グッズの準備】

1.いつもバックに 外出先の持ち歩き用グッズ

食料(チョコレート・飴)、飲料水、現金、小型、保険証、運転免許証、常備薬、コンタクトレンズ、メガネ、マスク、除菌シート、ホイッスル他

2.非常用持ち出し 避難所に向かうための避難用グッズ 目安:1人1~3日分

飲料水、食品、携帯トイレ、印鑑、通帳、万能ナイフ、カイロ、歯ブラシ、スリッパ、軍手、簡易敷マット、体温計、筆記用具、乾電池、ラジオ他

3.自宅での避難生活に 在宅避難用グッズ 目安:1人3~7日以上

水、カセットコンロ、LEDライト、乾電池、モバイルバッテリー、食品(乾麺・パックご飯・レトルト食品)、簡易トイレ、ラジオ他

